

科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目（初等教育コース・特別支援教育コース）

授業科目名：初等音楽

対象年次：2年次

初等音楽

音楽教育講座・福富 彩子

1. 授業の目的と到達目標

小学校学習指導要領（音楽）の歌唱の授業に対応できるピアノ伴奏及び弾き歌いの表現・技能の習得を目的としており、初等歌唱共通教材を主に取り上げて演習形式で授業を行った。

到達目標は、次の3点である。

- 1) 小学校教科書掲載程度の楽曲のピアノ伴奏ができる。
- 2) 小学校教科書掲載程度の楽曲が弾き歌いできる。
- 3) 音楽を愛好する心を演奏を通じて表現できる。

2. 授業の概要について

本授業は、学校教育教員養成課程初等教育コース・特別支援教育コースの2回生を対象とする教科及び教科の指導法に関する科目である。

クラス分けの形態で開講され、2022年度の福富クラスの受講者数は計12名（前期5名・後期7名）であった。授業では、弾き歌い及びピアノの簡易伴奏や和音付けの知識・技能の習得に加え、表現の拡充を図るため、授業外学習が非常に重要となる。最終試験までの課題は、弾き歌い（ピアノ伴奏を含む）7曲を最低修得曲数として設定しており、最終回は、4曲（弾き歌い・合唱伴奏）の実技試験と振り返りを行った。全受講者の小学校歌唱教材修得曲数は、8曲～25曲であった。

以下、本授業の授業スケジュールである。

- 第1回 コード伴奏・歌唱教材について～導入～
- 第2回 ピアノの基礎的奏法について
- 第3回 基礎課題の演習（うみ）
- 第4回 基礎課題の演習（かたつむり、日のまる）
- 第5回 基礎課題の演習（ひらいたひらいた、かくれんぼ）
- 第6回 ピアノの応用的奏法と弾き歌いについて
- 第7回 発展課題の演習（春がきた）
- 第8回 発展課題の演習（虫のこえ）

- 第9回 発展課題の演習（タヤケコヤケ、うさぎ）
- 第10回 表現の多様性 アーティキュレーション
応用課題の演習（茶つみ、まきばの朝）
- 第11回 表現の多様性 レガート奏法とペダル
応用課題の演習（春の小川、さくらさくら）
- 第12回 応用課題の演習（ふじ山、ふるさと 他）
- 第13回 応用課題の演習（もみじ、冬げしき 他）
- 第14回 総まとめと課題の演習
- 第15回 実技試験と振り返り

※受講者に応じて課題変更の可能性あり。

3. 授業実践の取り組み

1) 個と集団（全体）を相互に関連付ける取り組み

本授業は、ピアノと弾き歌いの実技演習が中心となるため、全受講者が同時に演奏を行うことが難しいといった課題がある。受講者それぞれが自己課題を明確にして改善方法を探り練習に活かす取り組みを促すこととともに、熟達度の異なる受講者同士での活動を通して、技能・表現の向上を図ることのできる指導法の工夫が必要である。

そこで、授業冒頭に基本的な和音（I度、IV度、V度）と、それらの和音進行について講義と演習を行い、コード伴奏の基本知識に基づいて簡易な和音付けができる能力の育成をはかった。また、全体での活動後に個々の実技指導の時間を確保し、授業最後には全員で歌唱（合唱）とピアノ伴奏を行うなど、個と全体の活動が相互に活かせるよう心がけた。

授業1コマの流れ

全体(10分)	個別(60～70分)	全体(10～15分)
和音付 前回の課題確認	各受講者への個別指導/課題の練習 次回までの課題の提示	伴奏+合唱 振り返り

2) 熟達度の異なる学生への実技指導

小学校の歌唱共通教材は、簡易伴奏と本伴奏両方の楽譜を受講者全員に配布した。個々の熟達度や進度に応じて課題選択を行い、簡単な和音付けや伴奏

のアレンジなど演習中に適宜助言することで、小学校で求められるピアノ伴奏能力と音楽指導を行うための動機づけ、基礎的な知識・技能の修得をねらいとした授業展開を行った。本授業の課題実施には、予習・復習が欠かせないため、毎時間、実現可能な目標と課題を確認し合い、授業外学習の促進とともに、授業後も継続的な学びにつながるよう促した。

4. 授業アンケートの結果と考察

前後期の授業終了時、受講者 12 名を対象に実施したアンケートの調査結果を以下に記す。

表1 DP1~DP4の内容

DP1	知識・理解:教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。
DP2	技能:教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。
DP3	思考・判断・表現:教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。
DP4	興味・関心・意欲・態度:教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。

表2 DP1~DP4の調査結果 n=12(%)

	DP1. 知識・理解	DP2. 技能	DP3. 思考・判断・表現	DP4. 興味・関心・意欲・態度
とてもそう思う	5(41.7%)	7(58.3%)	2(16.7%)	5(41.7%)
ある程度そう思う	5(41.7%)	5(41.7%)	5(41.7%)	5(41.7%)
あまりそう思わない	0	0	0	0
DPとは無関係	2(16.7%)	0	5(41.7%)	2(16.7%)

表3 授業時間外の学習時間について

課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした学習時間(週平均) n=12(%)	
1時間~2時間未満	2(16.7%)
2時間~3時間未満	4(33.3%)
3時間~4時間未満	2(16.7%)
4時間~5時間未満	2(16.7%)
その他(10時間)	2(16.7%)

表4 授業についてのアンケート結果 n=12(%)

	授業の課題・進度は適切であったか	自己課題を明確に持ち、この授業に参加することができたか	自己課題に対する改善方法を探索・実践し、目標を達成することができましたか	毎時の課題(演奏)について、フィードバックや助言を得ることができましたか
とてもそう思う	11(91.7%)	11(91.7%)	7(58.3%)	11(91.7%)
ある程度そう思う	1(8.3%)	1(8.3%)	5(41.7%)	1(8.3%)
あまりそう思わない	0	0	0	0
そう思わない	0	0	0	0

DP 調査の結果は表 2 の通りである。DP2 においては、全員が「とてもそう思う」「ある程度そう思う」と回答した。DP1、DP4 においても 83.4% が「とてもそう思う」「ある程度そう思う」と回答した。一方、「DP とは無関係」と回答した受講生は、DP3(41.7%)、

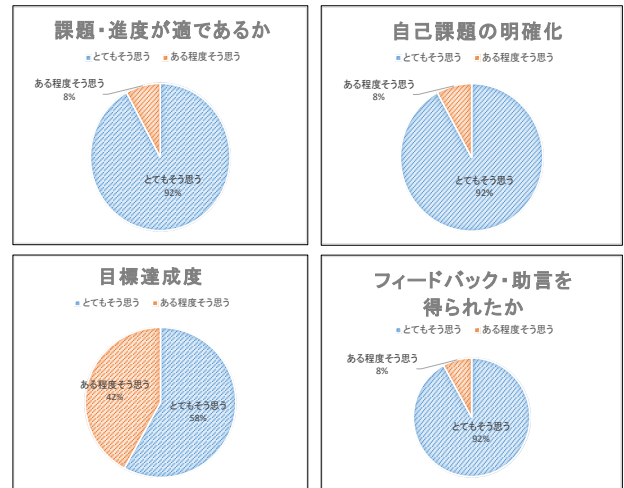


図1 授業についてのアンケート結果

DP1 (16.7%)、DP4 (16.7%) であり、受講生の意識にばらつきがあることがわかる。DP 3 にも関連する授業であるため、今後、DP に対応させた内容の見直しが必要である。

次に、「課題・進度が適切であったか」「自己課題を明確に持って参加できたか」「課題に対するフィードバック・助言を得られたか」の質問には、9割以上の受講生が「とてもそう思う」と回答した。「自己課題を改善し目標を達成できたか」の質問には、「とてもそう思う」が 58.3% である一方、「ある程度そう思う」と回答した受講生が 41.7% いたことから、個別の課題点や取り組みへの助言指導と自己解決能力の向上を図る工夫が必要であると考えられる(表 4・図 1)。

授業時間外学習(表 3)に関して、週平均 2~3 時間未満が 4 名、1~2 時間未満、3~4 時間未満、4~5 時間未満がそれぞれ 2 名ずつであった。週 10 時間を授業外学習にあてていた 2 名を除く 10 名の週平均は 3 時間であり、ある程度意欲的に取り組んでいる受講者が多いことがわかる。最後に、自由記述式のアンケート結果(表 5)から、ピアノ演奏や弾き歌いといった技能・表現面の向上だけでなく、受講生がピアノ演奏に取り組む姿勢、意欲・関心においても、本授業が重要な役割を果たすものと推察できた。

表5 自由記述式の意見・感想(抜粋)

ピアノ初心者の自分でも8曲ほど弾けるようになり、本当に履修してよかったと感じる。
歌う回数が多く、歌が苦手な私にとっても良い練習になりました。
とても楽しく学ぶことが出来ました。
初等音楽楽しかったです！今期で1番好きな授業でした。
とても楽しく学ぶことが出来ました。
ピアノが弾けるようになって実習が楽しみになりました。
これまではピアノの弾き歌いの経験があまりなかったのと、ペダルに苦手意識があったので、初めは難しいと感じていましたが、毎日の練習やレッスンを通して、ピアノを弾くことの楽しさと、上達した時の嬉しさを感じました。また、スムーズに弾けるようになるまで時間がかかり、レッスンや本番には間に合いませんでしたが、ほかの曲の本伴奏にもチャレンジしていて、その曲も徐々に弾けるようになってきているため、今後、家で練習を続けて弾き歌いできるようになりたいと思います。